

受講生からの感想を一部抜粋してご紹介いたします

- ・フォレンジック看護の概要について、その定義について学ぶことができて良かったです。元々社会問題に関心があったため、まさに自分が介入していきたいと感じていた分野だということが分かり、この分野の看護師と名乗っていきたいと感じるほどでした。
- ・DVと性暴力の講義がとても興味深かった。性犯罪は氷山の一角で、実際は数多くの性暴力があるという事に愕然とした。
- ・法律によるさまざまな規定を学ぶことができ、「このような場合、法律ではどのように判断をされるんだろう」と、思っていたケースが、実際にどのように判断されるのかを知ることができて良かった。
- ・幼少期からの正しい性教育を受けていることで自らの身体を大切にすることにつながる。妊娠出産さらに子育てへの影響も大きいことを実感しました。性教育の必要性がもっと理解され、子どもたちが正しい知識を持てるように私も貢献出来たら・・・と思った。
- ・子どもが虐待を打ち明けるプロセスがとても興味深かった。リカーはとても奥が深く、実際に自分が出来るようになるにはもっと勉強する必要があると感じた。
- ・法律についてはなじみがないため難しく感じた。司法面接の再現がとても分かりやすく勉強になった。今までニュースなどでは聞いた言葉がたくさんあったが意味までは全く知らなかったので、知識を深める事ができた。性犯罪においては立証することの難しさもあり、実際はもっとたくさんの事例があるのだと思う。私達の適切な対応、証拠化がとても重要になってくるのだと感じた。
- ・受刑者をはじめ、支援が行き届かない性暴力被害者の理解についての講義がとても興味深かった。高齢者や障害者など社会的な弱者が、だましやすい、いやと言わないという理由で性暴力を受けやすいという現実を知り、愕然とした。障害者には、もともと自己肯定感が低く、被害を受けても仕方がないという深層心理があることも知った。また、被害を訴えることが出来ない為にその後の回復も困難であるという事を学んだ。被害を受けた一瞬だけでなくその後長期的に関わる必要性や、障害有無に関わらず多職種を踏まえて支援に対する方向性を考えることの大切さを学ぶことができた。
- ・性教育をする上で「LGBTの内容ではなく、自分の性への自己理解をすることから他者理解を促す」という着眼点はこれまで持ってきたものではなかったため、ぜひそのような指導をしていきたいと感じた。

- ・法医学の講義では、傷の見方について実際の臨床の場においても役に立つ知識だった。児童虐待についても私達が知識をもって関わる事により、発見につながる事もあるのだと改めて思いました。医学的な証拠採取や記録がのちに被害者を救う事につながる事もわかり、改めて重要性を認識しました。
- ・子どもを性被害から守る、警察への届け出の意義と留意点についての講義を聞き、改めて幼少期から発達に合わせた性教育を継続していくことの重要性を学んだ。また、性暴力による傷の有無が、加害者の罪の軽重に影響するという事を知り、医療記録が重要であるという事を学んだ。
- ・多職種と協働する事、社会資源の活用について学び、改めて誰もが安心安全に暮らす権利を持っており、希望を持って生きていくことの大切さを実感した。SANE としての役割は、証拠の保全や被害者の精神的ケア、多職種連携と多岐に渡るが、ロールプレイを通し、安心安全な環境を提供し、被害者に寄り添い「あなたは何も悪くない。」「よく来てくれました。」と言動で表すことが最優先であると感じた。
- ・SANE 役を実際にやってみて、聞き取りの難しさを実感した。まずは安心感を与えるような声掛けをするために自分自身が被害者に寄り添い、心の余裕を持ち関わる事が大切であると改めて実感した。そのために自身の心理面へのケアも大切にすることが大切であると思った。
- ・性被害者に対する理解を深め、支援にあたり取り組むべき課題がある事を学ばせていただきました。ここからのスタートとなりますが、できることが多くあると捉え、仲間を増やしながら頑張っていきたいと思います。
- ・電話対応の演習はとても緊張し、難しいと感じた。短時間で、確実に受診に繋げることが出来るようスキルと寄り添う心が大切であると感じた。
- ・フォレンジック看護について全く未知のところから開始しました。講義を聞き、これはいろんな人が真剣に取り組まなければならないし、病院全体にも広く周知しなければならないと実感しました。子どもへの対応は厳しい部分もありますが、少しずつ前に進んでいきたいです。
- ・今後センター内で立ち上げ対応していくこととなりますが、いろんな部門の方と協力して進めていきたいと思えます。今回このような機会をいただいたことに感謝しています。ありがとうございました。